

# 日本学会議政治過程分科会オンライン公開シンポジウム 「デジタル化時代の選挙－電子投票の現状・課題・未来－」

討論者・西川伸一  
明治大学政治経済学部  
日本学会議連携会員  
nisikawa1116@gmail.com

## 1) 総論的お尋ね

日本で電子投票を導入すべきと考えるか

「いいえ」→その理由

参照) 日本国憲法前文

「そもそも国政は、国民の**厳粛な**信託  
によるもの」

←→ワンクリック投票

公職選挙法1条

「この法律は、**日本国憲法の精神**に則り」

「はい」→どの段階まで;それぞれの理由

- ①投票所での投票行為の電子化(タッチパネル式)
- ②投票所以外でも特定の場所で電子投票を可能にする
- ③投票場所を問わないインターネット投票
- ④その他(具体的に)

「答えられない」→その理由

## 2) 井田報告についてのお尋ね

### ① タッチパネル式投票(スマホ投票ももし実現されれば同じ)

市議選のように候補者が多数の場合、1画面に収まりきれない。  
この不公平について導入時に議論はあったのか。

### ② $R=P \times B - C + D$

「C」は安易に引き下げていいのか。「厳粛さ」は考慮しなくていいのか。

例) 期日前投票: 選挙運動期間の無意味化、知名度不足の候補者はいっそう不利に

### ③ インターネット投票は「D」の引き下げにつながり、投票率向上には資さないと考えるがどうか。

### 3) 中井報告についてのお尋ね

- ① エストニアでインターネット投票が導入された動機・文脈はなんだったのか。日本では投票率向上の道具として語られる(参考: 井田報告・加地小郡市長発言)  
「国策」としてのデジタル化の一環と理解していいのか。
- ② インターネット投票導入には、人口規模による限界はあるのではないか。人口約130万人のエストニアに対して、日本の有権者数は1億人を超える。周知徹底できるか。
- ③ 繰り返し投票をする有権者率、繰り返し投票の平均回数などのデータはあるのか。

#### 4) 渡辺報告についてのお尋ね

- ① インターネット投票の場合、証拠がデジタルでしか残らない。開票結果がおかしいと思っても票の再集計ができない。これは「危機管理」の点から問題ではないか。
- ② エストニアは「国民総背番号制」で管理社会の怖さを感じる。インターネット投票の導入推進は、社会をこの方向へ押し進める一助とならないか。利便性の向上と監視国家化の併進。
- ③ 「Society 5.0が目指すものは、人間中心の社会」とある。一方で、社会のデジタル化が進むことで、「幸福な」逆ユートピアが出現する恐れがあるのではないか。